

## 「福富提言」～福富のよりよい未来を考える～

第3学年 13名

授業者 永田和也 松下憲子 木本麻衣

場 所 3年教室

### 1 単元設定の理由

#### 【単元の目標】

- 福富が抱える課題を基に、よりよい未来の実現に向けた仮説を立て、検証することを通して、地域そのもののよさや地域資源について再認識するとともに、地域社会を形成する一員として福富のよりよい未来の実現に向けてどのようなことができるか主体的に考え、自ら進んで行動しようとする態度を養う。

#### 【生徒の実態】

- グループで出し合った、福富が抱える課題については、「人口の減少」「少子高齢化」「店が少ない」「野生動物による作物被害」といったものが多かった。日常生活での不便さを感じている生徒は多くいるが、福富のよりよい未来については、「落ち着いた町の雰囲気は残したい」「今ある福富のよさを生かすこと」など、生活の利便性だけを求めた発展は望んでいない生徒が多数である。一方で、福富の抱える課題の多くは、「人口の少なさに起因する」と考えており、課題と原因が堂々巡りになっているようにも感じられる。また、改善策としての実効性に乏しい。

#### 【単元観】

- 本単元は、福富が抱える課題について、住環境や産業、観光、福祉など様々な視点から考え、「福富のよりよい未来」を実現するための仮説を立て、検証することに主眼をおき設定した。人口が少ないという現状を踏まえて様々な面からアプローチし、検証方法の検討や専門家の方への聞き取りなど、課題に深く向き合うことを通して、解決に向けて主体的に考え行動しようとする態度が身に付くと考える。併せて、地域資源の活用を通して、福富のよさを再認識するとともに、地域に対して誇りをもち、将来にわたって他者と協働し社会に貢献しようとする姿勢を培うことのできる単元である。

#### 【指導にあたって】

- 様々な面から課題にアプローチし、実効性を高める展開

住まい、農業・特産品、生活という大枠を設定することにより、「福富のよりよい未来」という漠然としたテーマから焦点化した仮説を立てることができるようにする。仮説では、利点だけに終始するのではなく、それによって考えられる難点にも着目させる。また、取り組む課題も一面だけでなく、観光や福祉などの様々な面と関わっていることに気付かせ、課題を多面的・多角的に捉えることで、課題解決に向けたより具体的な取組を考えることができるようにさせたい。また、具体化した仮説について議論することを通して、自他の意見や考えのよさを生かしながら合意形成を図る力を身に付けさせたい。

- これまでの地域学習を生かした9年間のまとめとしての「福富提言」

これまでの学習を踏まえて、福富のよりよい未来の在り方について、協働して仮説を立て、検証し、助言を生かして考えを再構築し、後輩や外部に提言する。それらの活動を通して、分かりやすく発信する力を養わせたい。そして、これまでの学びを通して身に付けた主体性や協働性を、今後も地域の活動において生かしていけるようにさせたい。

## 2 単元構想ストーリー

学習活動	地域との連携 体験活動・資料	生徒の意識 の流れ
<p>○昨年度の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各グループで調べたこと（福富町の魅力）を再確認し、「魅力あるまちづくり」について意見を出し合う。</li> <li>さまざまな視点，立場から考えてみる。</li> <li>「何のために」という根拠も併せて考える。</li> <li>家族の意見も参考にする。</li> <li>課題と思われる点，現状を明確に認識するようにする。</li> </ul>	<p>&lt;資料&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度の1・2年発表資料</li> </ul>	<p>○昨年度，さまざまな分野で，魅力を再発見することができた。魅力あるまちづくりにどう生かしていけばよいだろうか。</p> <p>○将来的に福富町がどうなっていくとよいだろうか。</p>
<p>○現在，課題と考えられる点（人口減少，少子高齢化）も踏まえて，将来の魅力ある町づくりのために，どのようなことができるか考える。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>○内容のうえから分類すると，どのようなグループ分けができるか考える。</p>	<p>&lt;資料&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>福富町人口の推移が分かるデータ</li> <li>他市町村の地域活性化の取組が分かるもの（新聞記事など）</li> <li>「第Ⅱ期 広島中山間地域地域振興計画」</li> </ul>	<p>○福富町にある資源の有効活用はできないだろうか。</p> <p>○移住する人には，福富町の魅力を分かたうえで来てほしい。</p> <p>○アクアフエスタで広報活動をすることはできないだろうか。</p> <p>○信ぴょう性を高めるためには，過去のデータなどの資料を活用して，まとめる必要があるだろう。</p>
<p>○3つのグループ（住まい，農業・特産品，生活）に分かれ，仮説を立てる。</p> <p>「～することができれば，もっと魅力ある町づくりにつながるのではないか。」</p> <p>検証の方法を考え，取組を進める。</p> <p>○各取組における課題となる点を，各専門分野の方（学校運営協議会）にお聞きし，改善を図る。</p>	<p>&lt;地域との連携&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>福富支所</li> <li>道の駅</li> <li>しゃくなげ館</li> <li>各分野でお話を聞くことが可能な方</li> <li>学校運営協議会</li> </ul>	<p>○信ぴょう性を高めるためには，過去のデータなどの資料を活用して，まとめる必要があるだろう。</p> <p>○自分たちの仮説が正しいか（現実的か）検証するためには，専門的な知識がある人に聞いてみるといいのではないか。</p>
<p>○文化発表会で中間発表を行う。</p> <p>グループごとに，現時点での取組内容を発表する。</p>	<p>など</p>	<p>○発表してみて，改善する点に気付いた。</p> <p>○発表内容をさらに吟味しよう。</p> <p>○次年度に向けて，また地域にとって参考になる発信ができただろうか。</p>
<p>○中学1・2年生及び地域の方に向けて，「福富提言」を発信する。（例：支所や道の駅での展示）</p>		<p>○学習を通して，これから役立つ力を伸ばすことができる。</p>
<p>○「福富提言」に取り組むことで身に付いた資質・能力についてまとめ，今後の生き方に生かそうとしている。</p>		<p style="text-align: right;">【生き方】</p> <p>○福富町で生きていく人間として，地域活性化のためにできることがないか，これからも考えていきたい。</p> <p style="text-align: right;">【地域】</p>



### めざす児童・生徒像

福富のよりよい未来に向けて，発展的なテーマを設定・発信する学習を通して，福富の地域に誇りを持ち，地域に貢献しようとする意識を高めるとともに，仮説→検証→結論といった思考の手順を導き出し，議論したうえで合意形成をすることができる生徒

### 3 単元の評価観点・評価規準

評価の観点		評価規準	
		A	B
知識 技能	① 知識	○ <u>他市町村の地域活性化の取組と比較して</u> 、福富の地域活性化のための課題を理解している。	○福富の地域活性化のための課題を理解している。
	② 技能	○課題をもとに検証を行い、 <u>設定した仮説に対して説得力のある結論を導き出すことができる</u> 。	○課題をもとに検証を行い、設定した仮説の結論を導き出すことができる。
	③ 探究的な学習のよさの理解	○福富提言を通して身に付いた資質・能力は、福富のよりよい未来の実現に向けて、 <u>実効性の高いものとなるよう</u> 、探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	○福富提言を通して身に付いた資質・能力は、福富のよりよい未来の実現に向けて、探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。
思考 判断 表現	① 課題の設定	○ <u>福富のよりよい未来像や取組の目的を明確にし</u> 、それを実現するための具体的な仮説を設定している。	○福富のよりよい未来を実現するための具体的な仮説を設定している。
	② 情報の収集	○仮説の検証に必要な情報を、 <u>幅広く効率的に</u> 収集している。	○仮説の検証に必要な情報を収集している。
	③ 整理・分析	○説得力のある結論を導くために、収集した情報を <u>相互に関連付けながら</u> 整理・分析している。	○説得力のある結論を導くために、収集した情報を整理・分析している。
	④ まとめ・表現	○課題に対する解決方法について、 <u>多面的・多角的に</u> 、根拠を明らかにして提言している。	○課題に対する解決方法について、根拠を明らかにして、提言している。
主体的に学習に取り組む態度	① 自己理解・他者理解	○他者との意見交流を通して、 <u>福富のよりよい未来の在り方には多様性があることを認識し</u> 、それぞれの意見の良いところを生かそうとしている。	○他者との意見交流を通して、福富のよりよい未来の在り方について、それぞれの意見の良いところを生かそうとしている。
	② 主体性	○設定した仮説に関する情報を自ら進んで収集し、 <u>より実効性の高い結論を導き出そう</u> としている。	○設定した仮説に関する情報を自ら進んで収集し、結論を導き出そうとしている。
	③ 協働性	○議論をすることによって <u>社会的な視野での合意形成を</u> 図ろうとしている。	○議論をすることによって、合意形成を図ろうとしている。
	④ 将来展望・社会参画	○地域社会の一員として、福富のよりよい未来の実現のために <u>できることを具体的に考え</u> 、行動しようとしている。	○地域社会の一員として、福富のよりよい未来の実現のためにできることを考えようとしている。

#### 4 単元計画【地域探究学習のみ（全30時間）】

小単元 (時数)	小単元の目標と主な学習内容 ◎ねらい ○学習内容	評価の観点 (評価方法)	教科・特別活動等 との関連
1 導入・課題設定 (4時間)	<p>◎福富の課題について、様々な視点から考え、福富の「よりよい未来」について、自分なりの考えをもつことができる。</p> <p>○福富の課題と解決方法について、意見を出し合い、交流する。</p> <p>○他地域の地域活性化の情報を収集し、参考資料とする。</p> <p>○福富の「よりよい未来」について、各自で考えた後、交流する。</p>	知①（行動観察）	
2 整理・分析、まとめ・表現（10時間） 展開① 情報の収集、	<p>◎「福富提言」のテーマを各グループで決め、仮説→検証の流れに沿って、取組を進めることができる。</p> <p>○個人の意見をもとにグループ分けをし、仮説の方向性を決める。さらに、仮説の検証方法を検討する。</p> <p>○情報の取捨選択や整理・分析をしながら検証を進める。また、地域調査を計画・実行する。</p> <p>○適切な表現方法により発表内容をまとめ表現する。</p>	<p>思①（行動観察、ワークシート）</p> <p>主②（行動観察）</p> <p>知②思②③ (行動観察, 成果物)</p>	<p>&lt;道徳&gt; C(16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度</p> <p>&lt;国語&gt; 話し合いで意見をまとめようー合意形成を目指す話し合い</p> <p>&lt;社会&gt; 地方自治と私たち</p>
3 まとめ・表現（12時間） 展開② 整理・分析、	<p>◎経過報告を行い、専門家の助言を取り入れて、発表内容の改善を図る。</p> <p>○各専門分野の方々の意見を聞き、検証内容の再検討及び改善を図る。</p> <p>○保護者に向けて、発信する（中間報告）。</p> <p>○新たに加わった情報を精査・分析し、検証を進める。 (本時 6/12)</p>	<p>主①③ (行動観察, 成果物)</p> <p>思④（行動観察, 成果物）</p> <p>思③（行動観察・記述）</p>	<p>&lt;学校行事&gt; 文化発表会</p>
4 振り返り（4時間） まとめ・表現、	<p>◎中学1・2年生及び地域の方に向けて「福富提言」を発信し、振り返りを行う。</p> <p>○「福富提言」最終報告を発信する。 (例：支所や道の駅での展示)</p> <p>○これまでの取組を振り返り、成果と課題をまとめる。</p> <p>○自己の生き方との関連を図る。</p>	<p>知③(ワークシート)</p> <p>主④(ワークシート)</p>	

#### 5 本時の目標

さまざまな方法で収集した情報を整理・分析し、福富のよりよい未来の実現に向けて、検証を進めることができる。(思③)

## 6 本時のルーブリック

A	B
☆説得力のある結論を導くために、収集した情報を相互に関連付けながら整理・分析している。	☆説得力のある結論を導くために、収集した情報を整理・分析している。
各グループの指導案に具体的な言葉や姿を掲載しています。	

## 7 学習の流れ

学習活動と主な発問 (○)	指導上の留意事項 (◇) 評価 (☆) ◆努力を要する状況と判断した児童・生徒への指導と手立て
1 本時のめあてを確認する。	
収集した情報を整理・分析し、福富のよりよい未来の実現に向けて検証を進めることができる。(思③)	
2 本時の授業の流れについて板書で確認する。 ○自分たちのグループの進捗の確認。 ○本時で行うことの確認。	◇前時から進めている内容について、各グループで確認させる。 ◇ここまでの活動で不足している点や今後の方向性について、共通認識をもたせる。
3 各グループ（生活・野菜・住まい）で、検証を進める。 <検証の視点> ・調査に基づいた分析ができているか。 ・地域の方の立場に立って考えているか。 ・提言として説得力がある流れが構築できているか。	◇「福富のよりよい未来の実現に向けて」ということを意識させ、当事者として主体的に活動していくことを意識させる。 ◇新たに収集した情報を、相手が納得できる結論になるよう、整理・分析することを確認させる。 ◆グループ内で意見を述べるのが難しい生徒には、調査時のメモ書きなどを振り返らせ、意見を言えるよう助言する。 ☆説得力のある結論を導くために、収集した情報を整理・分析している。(思③行動観察, 振り返り)
4 振り返りをする。	◇まとめに向けて、今後も改善を加えながら進めていくことを伝える。

## 8 板書計画

めあて：収集した情報を整理・分析し、福富のよりよい未来の実現に向けて検証を進めることができる。	
【検証の視点】	<グループ> <仮説>
○調査に基づいた分析	・生活・・・子育て世代が交流できる場を作れば、より安心して生活できる街になるだろう
○地域の方の立場で	・野菜・・・福富の野菜を新鮮な状態で提供したり、珍しい野菜をアピールしたりすれば
○提言としての説得力	福富の野菜の良さを知ってもらえるのではないか
	・住まい・・・空き家を民泊施設にして、福富の生活を体験、知ってもらうことで移住者が増える

## 福富提言～福富のよりよい未来を考える～

～単元における目指す生徒像～

福富のよりよい未来に向けて、発展的なテーマを設定・発信する学習を通して、福富の地域に誇りを持ち、地域に貢献しようとする意識を高めるとともに、仮説→検証→結論といった思考の手順を導き出し、議論したうえで合意形成をすることができる生徒

このような生徒の姿を達成するために、以下のような工夫を行った。

### 主体性を育成する工夫

#### ・導入時の資料の活用と興味ある分野の選択・グループの編成

福富の地域活性化のための課題を考えるうえで、福富町の人口の推移や意識調査のデータ、また他市町村の地域活性化の取組が分かる資料を準備し、多角的にアプローチできるようにした。そのことを踏まえて、さまざまな福富町の課題を出し合った。課題の内容を整理し、各自の興味・意欲を喚起できる分野を選択し、「住まい」「生活」「野菜」の各グループを編成した。

#### ・表現活動・・・分かりやすく伝える工夫

検証を進める中で、各グループが必要と考える機関・事業所へのインタビューを行った。また、文化発表会では、中間発表を行った。いずれも相手意識を重視し、「的確な内容で、簡潔にインタビューするには、どのようにすればよいか。」「自分たちの取組を聞き手に分かりやすく伝えるには、どうするのが効果的か。」など、グループ内で試行錯誤を繰り返しながら、質問内容や情報を整理して、表現活動に臨んだ。

#### ・地域での体験活動

インタビューを行う中で、地域での活動に参加できるよう、事業所の方にご配慮いただいた。生徒も意欲的に参加し、地域の方の生の声をお聞きしたり、活動に必要なことは何かを自分事として考えたりしたことで、検証に生かすことができた。



地域の活動にスタッフとして参加



野菜館で情報収集

#### ・ワークシートの工夫・・・グループごとに考える内容を焦点化できるように

各グループの検証の方法や進捗状況が異なるものだったので、それぞれが考えやすいように、効果的なファシリテートをねらって、各グループの内容に合わせたワークシートを指導者が作成した。それに書き込みながら学習を進めることで、自分たちで情報を整理できるようにした。

### 協働性を育成する工夫

#### ・Jamboard の活用、電子黒板、タブレットの活用・・・可視化

具体的な活動に入る前の下準備として、夏休み中に Jamboard を活用して、各グループのテーマに関わる各自の意見を自由に書き込めるようにした。一堂に会さなくても、各自がコメントを書き

込むことで、協働的に取組を進めることができることを期待した。

また、グループ内で検証を重ね、パワーポイントを作成する過程で、お互いの意見を述べやすくするために、電子黒板に映し出したり、タブレットの画面を共有したりした。



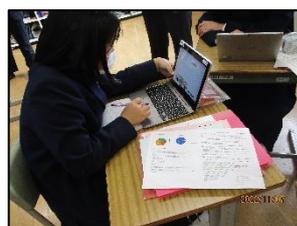
電子黒板による情報共有

### ・グループ内での役割分担

グループ全員での話し合いの場面とメンバー各自もしくは2名程度で分担して作業を進める場面を設定した。分担によって、各自が担当する内容を細分化でき、責任をもって取り組むと同時に、メンバーの連携を密にし、各自の担当内容について意見交流や助言を行うなど、課題解決に向けて学習を深めることができるのではないかと考えた。

## 成果と課題

○地域の方や保護者にご協力をいただき、実際の現地調査や、生の声のデータをグラフ化するなど、検証に向けての材料を多く集めること



収集した情報のグラフ化



自主的に参加

ができ、説得力のある内容とすることができた。また、地域に赴いての体験活動では、該当グループのみならず、学年全体で有志が参加し、地域の活性化に向けて前向きな意見をもつことができ、生徒にとって体験の意義が感じられる内容となった。

- 「仮説→検証」の方向性や、ファシリテートの妥当性について課題が見られた。何をもって検証とするのか見極めることが非常に困難であった。生徒個人によっては、細部まで突き詰めて考えようとする場面も見られ、どこまでできればベストなのか、また検証の方向性ははたして妥当なのか、ファシリテートする側も困惑する場面があった。
- 今年度のゴールの方向性及び時期の設定について難しさを感じた。例えば、野菜グループのレシピづくりでは、野菜の旬の時期を過ぎたため、検証の段階で実際に調理することができないなど、1年という期間では説得力のある検証にまで高めることが難しい例も生じた。こうした内容について、メンバーが交代する次年度に引き継がれるのかも不透明である。改善策として、次年度は早い段階から探究的な学習をスタートさせるなど、開始時期について検討する必要がある。
- 活動に対する生徒の意欲を維持するために、どのようなファシリテートが効果的であるか考える必要がある。生徒アンケートで「地域の方との交流を通して、課題解決に取り組むことができる」の項目において、6月、12月ともに肯定的評価は100%であった。しかし、「大変思う」を選んだ生徒が69.2%（6月）から50%（12月）に減少している。これは、今年度のテーマを検証する段階で、福富町の実態を鑑みると解決は容易ではないと考えるなど、思考の深まりが数値に現れたものと捉える。しかし、生徒の意欲を長期にわたって維持させることは不可欠で、生徒の活動に応じた効果的なファシリテートの方法を常に考えていく必要がある。